

所長と若手職員との座談会を開催しました

管 理 課

去る7月13日(水)に所長と若手職員との座談会が開催されましたので、その概要をご紹介します。

今年度は、新たな中期目標の下、今後5か年間の第3期中期計画のスタートの年に当たり、新たな研究課題への様々な取組が始まっております。

このような状況の中、若手職員との意見交換を通じて問題意識の共有を図るとともに、課題解決や新たな取組を見いだすため、若手職員との座談会を開催しました。座談会は平成20年から開催され、今回は3回目となります。座談会には、各研究グループ、共通部門、支所から8名の職員が出席し、太田総括研究監の司会により、川村所長と西村審議役との意見交換という形式で進められました。出席者は20代から30代の若手職員で、各出席者から、事業仕分けや第3期中期計画の策定など当研究所の置かれている状況を踏まえ、「日常業務で職員が考えていること、疑問に感じていること」などについて率直な意見が述べられました。

座談会で出された意見をいくつか紹介しますと、次のとおりです。

一般向け科学展等への参加については、「所としての参加回数が減ってきているが、メディアの取り上げ方が多いこともあり、一般的な周知には丁度よいので、もっと重点的に取り組んでもよいのではないか。」「チームとしては、準備に時間が掛かり大変な部分もあるが、メンバーの中には、土日でも参加してもよいと言ってくれる人もいます。」「青少年科学館の職員が一般公開に来て、幾つかの展示や実験は環境科学展に非常に相応しいと熱意を持って言ってくれた。」といったような積極的な意見も出されました。

また、業務の進め方については、「冬の調査が天候に左右され、3月末にデータをまとめるのが大変だったので、予算を繰り越して翌年度に使いたかったが、中期計画の最終年度だったため、繰り越せなかった。」「採用や人事については、「新規採用が必要ではないか。」「短い異動サイクルではキャリアの見通しが立てづらい。」などの率直な意見も出されました。一方、幹部からは、「部門間の融合については、今後も必要

と考えており、研究内容によっては、今後もユニット等を作って取り組んでいきたい。」というような話もありました。

2時間という短い時間ではありましたが、若手職員が平素は直接意見を伝える機会の少ない所長に意見を述べ、それに対して幹部も交えた率直な意見交換が行われたことは有意義であったと思います。

(文責：遠藤 謙二)



座談会の様子